

博士論文審査要旨

論文審査担当者

主査	明星大学	教授	佐々井利夫
委員	明星大学	教授	小川 哲生
委員	明星大学	教授	岡本 富郎
委員	国立音楽大学	副学長	神原 雅之

申請者氏名 板野 晴子
論文題目 日本の音楽教育におけるリトミック導入の経緯
—小林宗作、天野蝶、板野平の関わりを中心に—

(論文審査の結果の内容)

本論文は、スイスの音楽教育家エミール・ジャック=ダルクローズ（1865-1950）の創案によるリトミックが、日本の音楽教育においてどのように導入・普及されてきたか、その経緯についてリトミックの紹介者としての小林宗作、その普及者としての天野蝶、その理論の探究者としての板野平を中心に言及したものである。

以下に本論文の意義・成果を示す。

- ・小林、天野のそれぞれの取り組みを検討する試みはすでにあるが、日本へのリトミック導入の経緯全体を俯瞰する観点から彼らの取り組みを検討した研究はまだ見受けられない。ジャック=ダルクローズの書を翻訳するなどその理論の紹介普及に貢献した板野についての研究はまだなされていない。こうした現状にあつて、本論文はジャック=ダルクローズのリトミック論と3人それぞれのリトミック論の比較検討や、リトミック導入・普及についての3人の取り組みや果たした役割に言及し、日本の音楽教育におけるリトミックの歴史研究に新たな足跡を記したと評価することができる。

- ・方法として文献研究に加えて聞き取り調査を実行し、成果を挙げた。例として、小林がリトミックを知るきっかけを与えた主要人物の一人が新渡戸稲造であることは文献調査で知られていたが、新渡戸の令孫への聞き取り調査により、1920年前後の小林、新渡戸、ジャック＝ダルクローズの関係や当時のリトミックの授業の様相が浮き彫りになる記録を得ることができた。小林、天野、板野はいずれも故人であり、それぞれに教えを受けた方々も高齢化していく現状にあって、かつてのリトミックがどのように展開されていたかを聞き取りという手法で描写することも一つの方法として重要ということを示唆している。

本論文の問題点、課題として以下の指摘があった。

- ・小林、天野、板野に共通性と差異性の検討があるとそれぞれの特色がさらに明確になったのではないか。
- ・3人のリトミックへの取り組みに批判的視点での検討もありうるのではないか。
- ・リトミックの対象年齢によってリトミックの内容が異なるのではないか、そのことによって論じ方も変わるのではないか。

以上、課題はあるが慎重に審議した結果、本論文は日本の音楽教育におけるリトミック史研究に大きく貢献するとの点で各委員の意見は一致した。

よって、本研究は博士（教育学）の学位を授与するに十分価値あるものと認める。

（試験および試問の結果の要旨）

口頭試問においてはまず論文の概要を論文提出者が述べ、その後審査委員により質疑があった。

概要説明は適切に行われた。質疑応答については上述の（論文審査の結果の内容）に示される評価すべき点と問題とすべき点の指摘があったが、論文提出者は適切に応答した。

慎重に審査した結果、合格と判定した。